

本業で地域貢献！
富山における
プロボノ活動の可能性

富山プロボノフォーラム2010

2010年12月10日(金)

まちなかサロン「ポエシア・ブランカ」

自己紹介

- 成川 友仁（なりかわともひと）
- 中小企業診断士・社会福祉士
（社会事業コンサルタント）
- 事業主（コンサル事業会社）でもあり、
被用者（富山県の外郭団体）でもある。
- 中小企業の経営支援、新規事業の企画立案、
知的財産戦略、福祉施設コンサル等で活動。
まちづくり団体などの地域活動にも参画。

私の名刺...4枚も？

REGISTERED MANAGEMENT CONSULTANT
中小企業診断士（社会事業コンサル）

地域経済の活性化に尽力します！

成川 友仁 なりかわ ともひと

930-0313 富山県中新川郡上市町中江上542-3
事務所電話(FAX兼用) 076-473-2460
narikawa_free@yahoo.co.jp



TONIO
Toyama
New Industry
Organization

財団法人 富山県新世紀産業機構

中小企業支援センター
中小企業診断士・社会福祉士

中小企業支援推進員 成川 友仁

〒930-0866富山市高田527 情報ビル
TEL(076)444-5605 FAX(076)444-5646
E-mail narikawa@tonio.or.jp
URL <http://www.tonio.or.jp/>

けんりじょうやく
子どもの権利条約フォーラム2009



実行委員（分科会担当）

成川 友仁 なりかわ ともひと

2009年11月14日(土)・15日(日) 富山国際会議場にて

【主催】子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま
実行委員会（実行委員長 明橋大二）

【公式ウェブサイト】<http://npo-palette.org/nrcr2009/>

よろしくおねがいします
富山元気プロジェクト

実行委員長 成川 友仁 なりかわ ともひと

（中小企業診断士・社会福祉士）



【実行委員長の電子メールとツイッター】
narikawa_free@yahoo.co.jp
<http://twitter.com/toyamagenki>
【富山元気プロジェクトのウェブサイト】
<http://ameblo.jp/toyamagenki/>
<http://www.at-ml.jp/57304>（携帯版）



プロボノとは

■ プロボノ

- ラテン語のpro bono publico(公共善のために)に由来する言葉。もともとは士業者などが無報酬で行なう公益活動を意味する。
- 保有する知識や技能を生かすことが特徴。

■ ラテン語って

- ローマ帝国の公用語。現代ではもっぱら、専門用語・学術用語・宗教用語として使用される。
- ego(エゴ/私)、de facto(デファクト/事実上の)、prius(プリウス/先駆する)など。

プロボノの”bono”

■ ラテン系の言葉でbonは「よい」

- フランス語のBonjour! (ボンジュール)
- イタリア語のBuongiorno! (ボンジョルノ)
 - こんにちは(good-day)
- スペイン語のBuenos Aires (ブエノス・アイレス)
 - アルゼンチンの都市名(Good Airs)

■ 実は日本でもおなじみ

- ボンカレー(bon curry) ... フランス語から命名
- ボーナス(bonus) ... ラテン語の「よい」から

身近にある英語以外の名前

■ ラテン系の言葉は母音が多くなじみやすい

- マリエとやま

- フランス語のmarier(結婚させる)から

- ファボーレ

- イタリア語のfavore(愛顧・好意・恩恵)から

- ポエシア・ブランカ

- スペイン語のpoesía blanca(白い詩)から

- ボルファートとやま

- ドイツ語のWohlfahrt(福祉)から

プロボノ ≠ プロ・ボランティア

■ ボランティア(volunteer)の語源

- ラテン語で「自発的におこなう」を意味するvolō (ウォロ)に由来する。

■ プロボノとボランティアとの違い

- プロボノ活動は、特に内心の自発性を求めない公益活動。(弁護士会などで一定時間以上のプロボノ活動を強制していることも)
- ボランティア活動は、自発性が本来のあり方。(ボランティア義務化といった表現は妙)

関連概念

■ 寄附・ボランティア・プロボノの典型的対比

- 寄附行為 お金の提供
- ボランティア活動 時間の提供
- プロボノ活動 スキルの提供

■ CSR(企業の社会的責任)とプロボノとの対比

- CSR(Corporate Social Responsibility)すなわち企業の社会的責任の一環として行なわれる活動は、企業が主体である。
- プロボノ活動は、社員なり事業主なりの個々人が活動主体となる。(企業の関わりは後方支援)

プロボノ元年

■ 従来のプロボノ活動

- 弁護士による社会的弱者を対象とした無料法律相談や冤罪事件・公害事件などの弁護活動など、活動領域は限定的だった。

■ 2010年は“プロボノ元年”

- 所属や職種を狭く限定することなく、ビジネスパーソンが保有する専門的スキルを生かして、無理なくできる社会貢献のあり方として近ごろ注目を集めている。
- 社会的関心の高まり。情報通信環境の向上。

今年の動向

■ 現代的プロボノ活動の事例

- デザイナーがウェブサイトの作成で寄与。
- 広告代理店社員がマーケティング戦略で寄与。
- コンサルタントがプロジェクトマネジメントで寄与。

■ マスメディアによるプロボノ特集

- テレビ東京「ワールド・ビジネス・サテライト」(5月)、NHK「クローズアップ現代」(7月)など。
- 朝日新聞(7月)、日本経済新聞(8月)、中日新聞(9月)、読売新聞(10月)など。

私自身のプロボノ活動

■「とやまキトキトBIZねっと」

- 運営委員 2008年1月から現在まで

■「子どもの権利条約フォーラム2009」

- 実行委員(分科会部会代表)
2008年5月から2010年3月まで

■「富山元気プロジェクト」

- 実行委員長 2010年3月から現在まで

■「えがおプロジェクト」

- 監査 2010年11月から現在まで

とやまキトキトBIZねっと

■ 富山の勉強会 & 異業種交流会

- 2008年1月発足。毎月第2土曜に例会開催。
<http://kitokito.livedoor.biz/>

■ 発足の経緯

- 代表の中野さんは元中堅印刷会社の社員。大阪での単身赴任時代、社会人の勉強会に積極的に参加し、中小企業診断士の資格も取得。
- ところが富山に戻ってきて、大人の学びの場が少ないことに愕然。思いを語り周到な準備を重ねて、8名の仲間と共に勉強会の立ち上げに至った。

とやまキトキトBIZねっと



運営委員会の話し合い



中野英一郎代表



例会前半1時間の講義



自己紹介と質疑応答



二次会

子どもの権利条約フォーラム

■ 児童福祉の全国大会in富山

- 子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)を考え実践する、民間主催の全国大会。

<http://npo-palette.org/ncrc2009/>

■ 中小企業診断士の強みをいかす取り組み

- ワークショップの設計
- 分科会の企画書の磨き上げ
- 議事録の作成
- 起業家人脈の活用

子どもの権利条約フォーラム



ワールドカフェの様子



カードを使ったワークショップ



明橋大二実行委員長



立山青少年自然の家での夏合宿



富山元気プロジェクト

■ 地域活性化の試み

- 2010年3月発足。自然や命を大切にした生き方を
目指す中でネットワークを作り、富山の活性化に
もつなげたいと考えている。

<http://ameblo.jp/toyamagenki/>

- 活動の一環で5月23日、まちづくりをテーマにした
映画「降りてゆく生き方」の上映会を開催。
- 7月25日には総曲輪グランドプラザを半面借り
切って、「時間をはずした日の祭り」を開催。

富山元気プロジェクト

■ 映画「降りてゆく生き方」

- まちづくりをテーマにした映画の富山上映会に開催協力した。
- 映画のプロデューサー森田貴英さん(弁護士)は、映像・メディア関連の法律に強く、全国各地での自主上映会を通じて地域のつながりづくりに貢献。



森田貴英さん



えがおプロジェクト

■ シングルマザーの支援団体

- 2010年11月設立。とやま起業未来塾6期生の出分玲子さんが中心になって発足した。
- シングルマザー当事者としての体験や、小学校講師として子弟に接した体験を生かすべく、「働くママカフェ」の定期開催を経て団体設立に至った。
- 商店街の店主、県庁や市役所の職員、大学講師、銀行員、経営コンサルタント、弁護士、カウンセラー、元青年海外協力隊員などが役員として参画し、各自の本業や特技を生かして協力。

えがおプロジェクト

■ 働くママカフェ

- 毎月第2および第4日曜にポエシア・ブランカで開催。
- 働くママ(シングルマザーに限定しない)の語らいの場。



活動を振り返って

■これが利点！

- プロボノ活動を通じて普段あまり接点のない、自分より優れた凄い人たちとつながれる。
- 無償であっても「善良な管理者の注意義務」(民法644条)が発生し、質の高い活動を共にできる。

■竹井善昭さんの言葉

- ダイヤモンド・オンライン連載中。(ポエシア・ブランカにも渡辺慎之介くんの取材で来訪)
- ダイヤモンド社『社会貢献でメシを食う』の第5章「プロボノという働き方」の一節から。

企業よし、社員よし、地域よし

■ 企業の視点から

- 大手企業であっても、自己完結的な人材育成のあり方に変化が訪れている。
- 社員は自前で育成し、そこで身に付けた能力はよそでタダで使わせることはないといった姿勢ではなく、例えばNECや日本IBMのように、“地域で勉強してこい”とばかりに社員のプロボノ活動の後方支援を行なう取り組みが注目される。
- 中小企業においても、支援機関（商工会議所など）のセミナー受講も結構だが、地域活動を通じた学びの機会を活用したい。

富山の特徴

■ 富山の特徴

- 北陸三県ありがとうプロジェクト(ヤマシナ印刷・山科森さん)、まなびあい大学(富山福祉短期大学・北澤晃さん)、プロボノを標榜しないが実はプロボノ活動にほかならないという事例の宝庫。
- 都市部では企業所属のビジネスパーソンの活動が注目されているが、富山では事業主的な動きをする人が多い。東京にはNPO法人サービスグラントというプロボノ支援組織があるが、富山では自分たちで組織作りから始める必要があるため。

北陸三県ありがとうプロジェクト

■ 感謝の署名

- 感謝の言葉を記したスケッチブックを本人と共に撮影し、ブログで紹介。
- 催事などでは特別号として「ありがとう新聞」を発行。事務機メーカー＋システム屋＋イベント主催＋印刷屋＋地元のお店の連携で実現。



富山発プロボノの可能性

■ 地方(富山)発の地域活動のあり方

- 大手企業の後方支援やプロボノ支援組織に依存しない分、地域に根差した活動に強みがある。
- 思いを語り共感者でつながるプロジェクトチームやこの指とまれ式の有志の集まりで活動が発足する、内発的な取り組みが目立っている。
- プロジェクトチームや有志の集まり(任意団体で期間限定・地域限定)に対する柔軟な支援や、連携・協働といった緩やかなつながり(無形の地域資源)を促進する試みが求められよう。